

進め方

未来像から具体的な取組を議論

10年をどうしていくかのビジョンを考え、それを具体的な取組に落とし込む

人を見る、まちをみるの2つの視点で議論

京都の人に焦点を当てる、景観、雰囲気などハード、ソフト面の京都のまちに焦点を当てる、2つの視点で議論

意見交換の焦点

テーマごとの議論の際には、論点が明確になるのでは

アウトプットイメージ

市民を巻き込むものに

市民に分かりやすく伝われば、市民も変わることができる

行政の施策は市民に分かりにくいことが悩み

行政は、市民が行動するためのサポート

京都市の基本計画についても市民一人ひとりが自分のこととして捉えられていない。

未来像の実現に向けた歩み

夢の実現にはトリガー(ひきがね)が必要であり、それにより大きな流れができる

できる範囲で目標を定め、確実に実行することの積み重ねが将来に繋がる

オール京都体制で

府市協調で

目標・指標

評価は、指標や目標があつてのことだが、目標設定が大変

京都の魅力創出

景観や観光名所の魅力だけではなく、地域の魅力も観光とつながる

京都の観光地としての国際的な知名度を上げる必要がある

京都の良さ、施策の重層性が増していくことが必要。どの地域でも伝統行事を体験

伝統行事の担い手の世代交代ができていない。若い世代のワークライフバランスの問題

京都は他のまちと比べ、打って出る観光客誘致をしていない。ファーストクラスのホテルなどへの投資、誘致が必要

本当の京都

京都は、季節や伝統文化を五感で感じられるまち

京言葉など、京都のことを小中学生に教えることが、地域としての京都の魅力につながる。学校の先生だけが教えるのではないユニークな教育が必要

京都らしいイメージで形ばかり「京都っぽく」なっているが、大事な本当の京都の部分がなくなってきており、見直しが必要

環境や食、街並み、伝統など、京都のバックグラウンドが人を惹きつける鍵

人が集まる

人が集まってくるようなまちを目指す

京都で仕事をしたい、農業、林業に携わりたいという方を集めるための仕掛けが必要

まちの活性化には、住みやすいまちとすること。職住接近

人材の活用、育成

若い人のエネルギーや感性も大切だが、年寄りの知恵と融合するという姿勢が大切

京都以外の土地を経験することで広い視野が生まれ、京都のことを考えられるという面もあり、バランスが大切